

平和を考える 「小中学生作文集第三十三集」の発行によせて

沼津市

沼津市教育委員会

沼津市は、昭和六十二年三月二十日に、市議会の議決を得て「核兵器廃絶平和都市宣言」を行いました。核兵器の廃絶は、世界の人々の共通の願いであり、核戦争の危機に対する市民及び市議会の意思を踏まえて、平和への願いをあらわしたものです。

この作文集は、市内の小中学生が、授業や各メディア、身近な人の体験談などから、平和について感じたことを作文や詩で表現した作品を掲載したものであり、本年も多くの作品が寄せられ、第三十三集として発刊することができました。発刊にあたって、ご理解、ご協力をいただいた小中学生の皆さんや関係者の方々に、心から感謝申し上げます。

戦後七十余年が経過し、子供たちの作文の中に登場する戦争体験者も、「祖父」や「祖母」から、いつの間にか、「曾祖父」や「曾祖母」に変わりました。戦争を実際に体験された方の生の声を聞く機会は急速に失われつつあります。

そうした中、昨年二月、突如ウクライナで戦争が始まりました。テレビやインターネットでは、連日のように戦況を伝えるニュースが取り上げられ、これらを題材として書かれた作品も多く見られました。

この作文集が初めて発刊された頃と比べ、世界の状況は大きく様変わりをし、同時に、平和や戦争に対する人々の考え方も多様化しています。

しかし、平和を希求する心はいつの時代も不変であり、小中学生の皆さんが、この作文集を通じて抱いた想いを忘れることなく、平和な未来を築き、さらにまた次の世代へ引き継いでいけることを信じています。

どうか、一人でも多くの方々に、平和を愛する子供たちの声が届くことを願っております。